



すたぺンドリル 漢字の成り立ちと構造 ②

会意文字

……二つ以上の文字を組み合わせて、それらの字の意味を合成して新しい意味を表す文字のことです。

口 + 人 = 兄

「口」の象形と「人」の象形から、上に立って妹・弟の世話をする「あに」を意味する「兄」という漢字が成り立ちました。

人 + ヒ = 北

「二人の人が背を向けている」象形から、「そむく・にげる」を意味する「北」という漢字が成り立ちました。

人 + 一 = 千

「横から見ただ一人」の象形と「本の横線」から、数の「せん」を意味する「千」という漢字が成り立ちました。

形声文字

……意味を表す部分と音を表す部分を組み合わせて作られた文字のことです。

艸 + 化 = 花

「花」は意味を表す部分の「艸」と音を表す部分の「化」から成り立ちました。

木 + 交 = 校

「校」は意味を表す部分の「木」と音を表す部分の「交」から成り立ちました。

宀 + 子 = 字

「字」は意味を表す部分の「宀」と音を表す部分の「子」から成り立ちました。

漢字の歴史

今から三五〇〇年ほど前に中国で作られた文字が漢字です。絵のような文字から変化して、現在の形になりました。

絵文字

文字のない時代は、絵で記録や伝達を行った。



甲骨文字

カメの甲羅や牛の骨のヒジで古い、その結果を刻んだ最古の漢字。



金文

青銅器に刻まれた文字。情報伝達としての文字へと変化していった。



小篆

各地独自の文字を、秦の始皇帝が「小篆」に統一した。



隷書

役人の事務処理が、増え、素早く書くために文字が簡単になっていった。



楷書

南北朝〜隋唐にかけて、実用文字として変化し、現在の漢字の形になった。

